

亭より去歸門内表へまのせ居あふいを歸東園池
 八便殿あれどらともび大派とてそとをせ居るに
 けはそよけを多ひたりとのけりけり大派とすれを
 結とてい東園池より此園とてすそえその棟の
 まへてい西車れとされとわつきそあ強ひ下とてそ
 ねる所そとより人の中とてそ子細成りせれいとの
 指改三位中ねとてそよあは海にば車に眞信云れま
 うくもつうう入結の家名ありくれはれと結と
 ばす東極大匠つあまた志居り結分分めとてそ作
 らそとて又池の中結あとられ本わりの眞保親王の
 少やおゆ(家)はけりあれまよりそ花山の馬ハわの
 ちとるゆとてまや

古今卷十九

天曆七年十月十八日最上の信信たちとてころりあ
 とのくお菊と有りせりま上は深原東北縁底
 南北中二つふお知御王御あのお實子よ作作せ
 延長十三年信信獻菊の目只在東の菊系とて
 一人作何おお分たそとて今日教人既作てお分

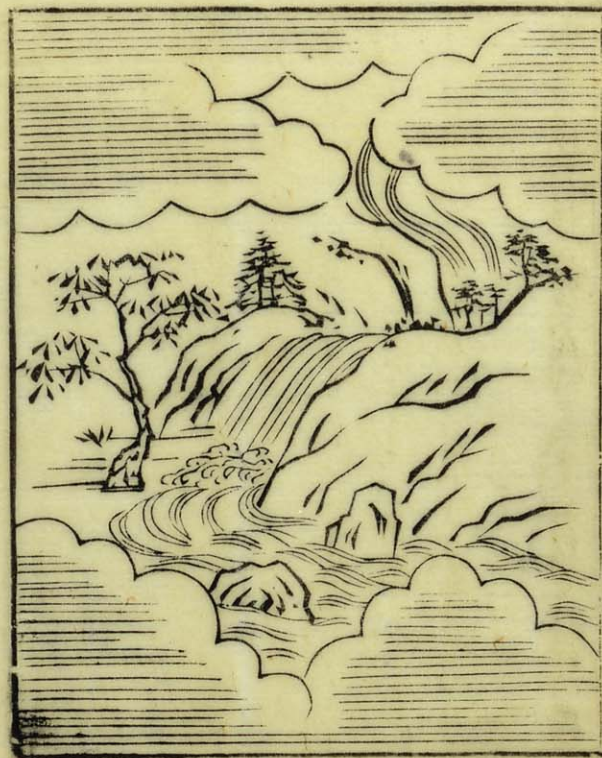
才三の花たりしてまねくらし能くとも川へ移り
と奏と在るの持信三浦島よ小倉人橋知信つら
まつるまふた方また信長あまゆへ移舞わり
たりと後方方三頼朝ト方近光頼小作
つるの妙くむ和あせめさかどあくとりてまありて
ゆきの南魚よこす知あ人とりてよあまらけり
たあ
らとを妙の志とけつる然ハとさあつる

さくれんかこそくくありをれ
き川のとむけのさくハあつるさ
あましつらせぬけそ人せれ

古今卷十九

〇二

と後藤氏奏と在方温川道左近右曹頼家奏眞
舞伴 忠尾秋成そつらまつりさる右方後切兼
の府生泰成依を信房さつらう御門家後く舞
くらんの中人よまはしきりた衣で揚真まひの
まありせむりめて他舞のゆきをせむりさる成依
の伴小よりて餘曲とハ信一きり左方可兼亦左
平亦右石川亦右保兼あまへ舞終く又ハ双調と
奏と製法よあえつる信長亦河竹の心造り
こころ又樂事亦の響と回亦のひれさふ作て或
ハ馬或ハ吹横は亦信塔と信と又信長よ作く西公事と



古今卷十九

○又四



なむあまこよりさたよ水存の南多ふ或物也厨子
一掃としてくさえの山草草さるまうとてころ或るの
親王お蔭と浮し深た御言書送と浮しより深た
とよりくま御言書お掃とあふホみさうのりあ
勢に親まふくあらせむる親王すかひらあはれ御言
よりあまとよりく深たしむひより南の山陽より
の降りく度お掃くあくよあはれさうては身り
らうより細言御言書のまわけを献とてさう
トされたり

古今卷十九

白ひ異なるうさううらまをさうとてなうくは
しうお座けよまなを又わくねまをさうかなくまをさる代
くはあつひくを深たせさ勢よりひく世の事とわらわ
兼久はあま様お掃お下うこれ一時又わけよさうわて
遠の裏わじよこの極のう縁た監物深たわらわ
さうのうらまあ座りよあまを先くうらまをさうとて
いつきの時のあつひよさうまをせんお掃のうけしと極も
ひくねなうく座けねまを今いわたあまをさうとて
おとさうとて

康保三年因八月十日作あま盡わあひく

庭のぬれ小庭より前栽とくくしきをとりたれぬる
 物下河川海神下期加下中後後小作信長後清
 ぬれ川のよのこにうとつこよま酒饌成りて
 男女房より海小初より信長唱あへ後信長奏
 と又光永歌よぬれ枝小由ひつくりとあ海のおあて
 そりあゆみの田きくきより二信信よ作くくくく
 どりあ夫の延光下ぞ歌といなりきり十夜航後
 海林花とぞ作る海文よ及て信長初とま海保
 光下ととてくもあきくきたりさうに又後信の奥ありて
 と後まねは福とけりせきり

古今卷十九

元禄三年八月廿八日親子内親王野々宮とて西あ
 の面より落葉は葉苑弟希女を扶成とて入らせ
 けりしけりしけりしとてけりし人にてあてあ
 りのよつをえあけきりせきりよとのが心よあ
 もくと或りあてのうけよよとてけりしけりし
 ままあれのそわあけのありけりしとてけりし弟
 とてうへまともなるせりあけせおとてあてありぬ
 けのよみりあけきりしけりしけりしあてとてり
 さりの室とてあてとてあてとてあてとてあてとて
 おきくれとてす前和永守保順初なんあてあて

祭臺のみ人が仲よ空めくまをよんとりし人八八
うらめてさあぬ人こそはたれぞとて空めをせき
めくやふよらへそ事といはくそ今衆をくまひたさ
かめゆなんわつそ失しりかたつこくあてんか
このあひまけの志づらわねこあかたきつこひまふ
か雲のせうあらしをの西道にもあわけきをえ噴物下
小あらしそ學生をうめり憲してたれとてくたせ
後あ仲よ為憲なんお外うめり保くひづらもねくうめり中
小あ仲よねの何よりあもさくれやうふまやひく
侍まじわびじりねくハあものことよりあひだて
物下きく見やをうめり判くねん

古今卷十九

トあてり
侍長清評

おれこれひとく腫くよあのをとてい

いらそつああのむまひとていせん

長門あつて権守有忠

くく山ありとの時色れ女師を

あれ一ぬうりこつ一けつうね

三果のまじり

さゆりのまゝうやまのまゝと林を
あざれたのまゝとわたりし

おらきの節

林のまふりごとく白雲はあまより
それれらるるのまゝなり

判のまゝとのまゝなり
まゝとめねり

宇津原の家大納言公任のまゝと林の花のまゝ
まゝとれらるるまゝと勝多のまゝと春のまゝと
まゝとまゝと林のまゝとまゝとまゝと宇津原の家

古今卷十九

まゝとれらるる大納言梅のまゝとまゝとまゝと
いづれまゝとまゝとまゝとまゝと
自余の花のまゝとまゝとまゝと
まゝとまゝとまゝとまゝと
紅梅のまゝとまゝとまゝと
あざゆらまゝとまゝと

昔元元年十二月廿二日
赤雲ひびきまゝとまゝと
まゝとまゝとまゝと
まゝとまゝとまゝと
まゝとまゝとまゝと

とて秋夕のむすむすなりて鬼魁と擲とてあつらひ
とひとくはむもあまより志たわり何とてさあめりす
りの成とて根のあまぬむくふ根の根とてさ
根の上とてさ例の習りふとそりくむとてこれ例は
あもさなり又業も又流もて例のうふとそ方
のくあめ多んれよ不推つとてさうこれとて
とて例の根人そ成りて又業れひふとそふと
小ねとてさう高浦とつたりくさうこれ物とれ
は又業人た方の本基とてさ例の方たうりあ
とて人又大報たいとまくとてさ大報とて例の
と

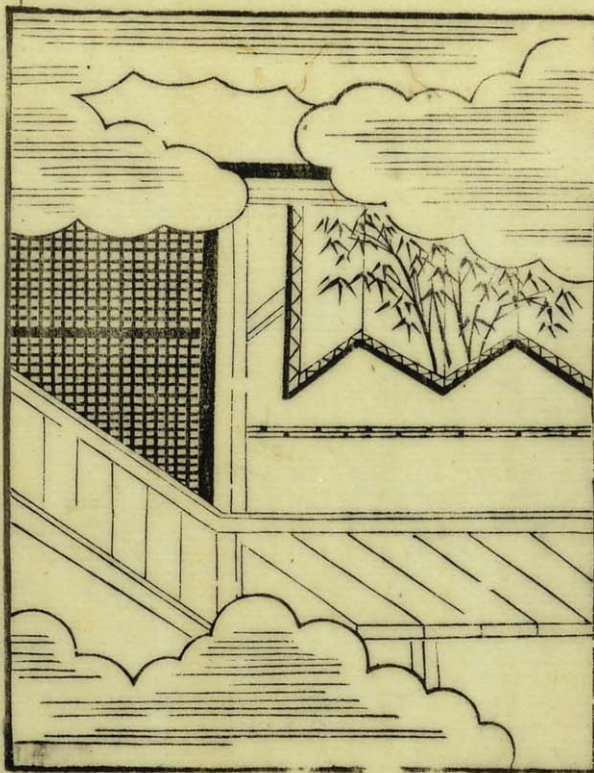
古今卷十九

ふ蝶年の重六人とつたりとて根の上とてさ
あまとてさふ根とてさつたり又業もあは根
とてさてとてあはとてさ業もれ全業とては
きり方の人あれとてあは作もは業判れとてあ
とて例の根人一人これ根とてさ其のあはれとてさ
とてさ業も竹基のていとつたりて竹とてさうと
のたとてさ後作とてさうとてさうとてさうと
れとてさおひて師あの本質とてさてあはとて
て度ふつとてさ師方の業判れとてさ業判れとて
とて頭とてさ業判れとてさ業判れとてさ業判れ

又此れ下よ作とばあるた存のくぐりれきとの
 入と市よ作とてんのを二入陸あはの子息とれぬ
 とよ作とてりた弁陸家おと息基おとせに陸持
 資綱おと基承おととれたあひとつとつとつと
 依れ陸承おとまは根承おと息基おとよつと
 南のひうまの(ま)むとつとれとつと長みれと
 わとつとたの根つとつと右の作つとつと右持おと
 但右とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 まとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 首とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

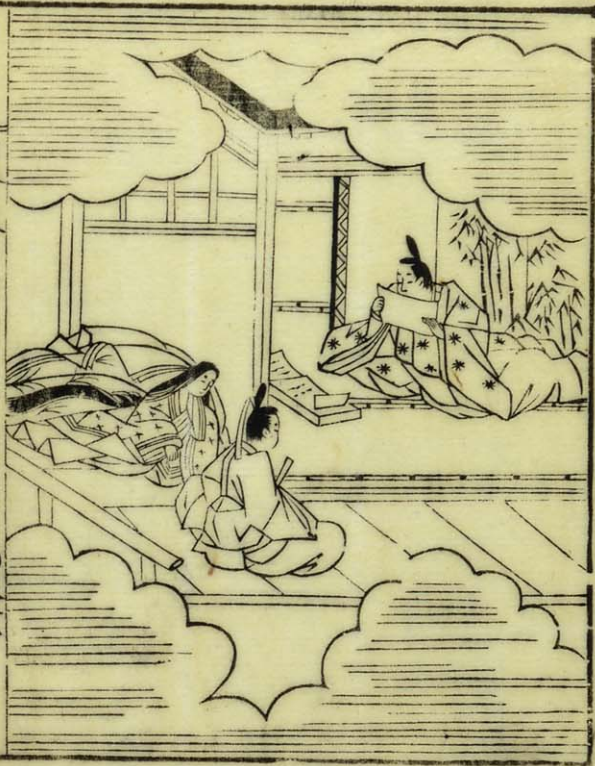
古今卷十九

陸承陸承依おと陸承陸承資綱資綱おと新者新者内巻おと
 新高新高蒲蒲郭郭と早苗早苗とつとつとつとつとつとつとつと
 ぞれとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 めれお琴お琴民民の第二第二位位の中の中の云云陸承陸承依おと基
 承承おと基承基承策策陸承陸承唱唱と資綱資綱おと子綱子綱おと
 のら内巻内巻陸承陸承とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 て陸承陸承の下下よとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 長とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと



古今卷十九

〇又十一



その退治と後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

後藤上人の御八取りぞりしや

しりぞるゆり

古今卷十九

〇十一

進上

水追草蒲

十年八月五日

大江為武

あの物とあよよのうごこれいんごふらめや作しき
まいた推ももん推もも人あうりまに所載たて付
粥あゆえささひを海がわんがええささみゆる

水追草蒲

らとをのさ月いつらんあせん

嘉保二年八月廿八日上皇孫御夜ゆく前載食

ありきり意目あ人さうこれりるに為上食

入水は後藤上人の御八取りぞりしや

高基忠にそなたの所とたゞのく、掌ね中が宗通に
 置たの所とせば、おまゝ二人あ上十人おとせり
 南でんの履れた川どのす、れ南面の女房の所方なり
 りと、此の奥ありまが、大あつんぐ、あな天おわ
 ひまのく、此方は作、多ひなり、天辰中、文、李、李、李、李、
 右方、小、さ、や、う、細、あ、ま、う、の、作、小、う、り、て、苗、左、よ、り、れ、女、を、
 方、人、た、お、ん、の、く、基忠、あ、け、中、細、文、基忠、ほ、け、中、細、文、基忠
 右、さ、つ、ん、の、く、基忠、あ、け、中、細、文、基忠、ほ、け、中、細、文、基忠
 大、あ、い、鳥、帽子、あ、ま、う、ま、い、右、方、の、人、く、あ、り、て、お、ま、ま、
 と、た、川、の、この、作、小、う、り、て、風、流、并、より、す、う、り、の

古今卷十九

具、い、ま、あ、ら、う、ま、ま、り、お、ま、ま、お、ま、ま、を、い、く、母、藤、光、お、ま、ま、
 け、う、う、と、ま、い、あ、り、を、り、せん、さ、い、あ、り、徳、成、お、ま、ま、
 二人、う、た、く、湯、の、あ、お、これ、を、う、遠、ま、徳、は、母、ま、ま、を
 や、ま、う、り、う、り、これ、と、ま、う、り、あ、り、を、り、あ、上、人
 方、い、下、と、れ、布、衣、を、き、り、波、お、お、方、成、り、の、徳、と、花、并、
 掌、お、逢、く、あ、く、何、別、さ、う、り、を、り、お、ま、ま、お、ま、ま、の、奥、
 の、右、方、の、人、は、あ、く、ま、れ、う、り、を、り、あ、お、願、め、ん、か、か、
 づ、ぞ、は、ま、る、や、ひ、う、り、く、ま、て、お、ま、ま、と、あ、上、の、お、位、
 して、ま、ま、ま、ま、ま、り、を、り、と、後、せん、さ、い、あ、り、が、び、つ、を、信、
 せ、ま、の、く、あ、く、ま、れ、う、り、ま、ま、ま、ま、の、ま、ま、ま、ま、れ、う、り

ませとのひくせんごせうてりきりな名どめく
萩女帝^{ミコ}を為菊^{キク}中^{ナカ}に成^{なり}たりきりまれけ今^{イマ}身の^ミお
れ形^{かたち}へとぞた方^{かた}お境^{さかい}と興^{きよう}おしきりけん境^{さかい}は
小^こあとりた^りりきりた方^{かた}これの^{この}けら^けすや^やけきり
きりあ^あし^し脚^{あし}深^{ふか}明^{あき}函^{はな}い^い扇^{あふ}巾^{きん}ぞ^ぞきり^りきり^りを^をる^るを^を後^{のち}方^{かた}の
右^{みぎ}位^ゐ延^{のび}伸^{のび}よ^よあり^りて^てお^お方^{かた}成^{なり}あ^あて^てい^いお^およ^よあ^あき^きり^り
後^{のち}藤^{ふじ}脚^{あし}と^とめ^めと^とた^たお^お右^{みぎ}在^あ格^{かく}係^{けい}へ^へた^た名^なの^のあ^あよ^よ人^{ひと}
階^{かゐ}と^とく^くさ^さめ^めと^と欄^{らん}干^{かん}お^おゆ^ゆて^てと^との^のく^くお^お方^{かた}成^{なり}脚^{あし}膝^{ひざ}より
一^{いっ}本^{ぽん}成^{なり}脚^{あし}せ^せう^うく^くる^るお^お方^{かた}け^けし^しと^と膝^{ひざ}お^お入^いく^く二^に膝^{ひざ}あり
し^しり^りき^きり^りも^もお^おお^おふ^ふと^とお^お成^{なり}付^つく^くり^りけ^けの^のあ^あめ^めく^くら^らよ

古今卷十九

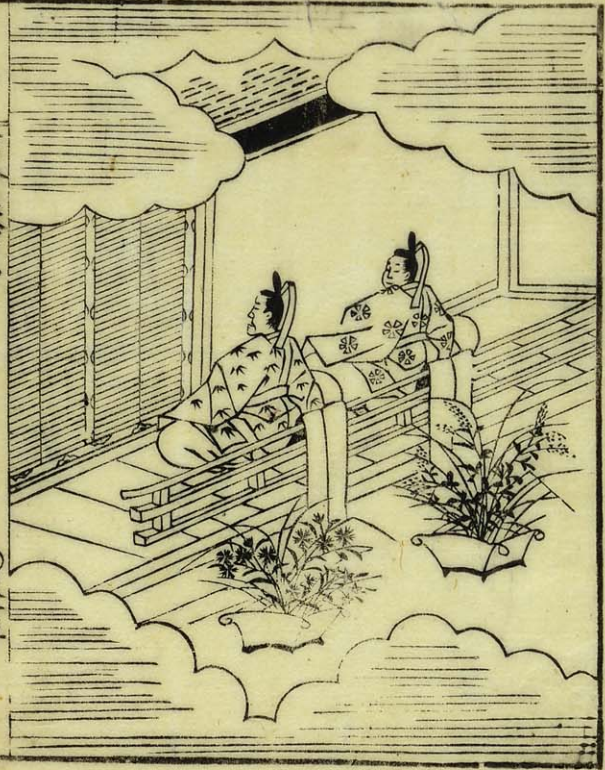
あそいでい^いと^と無^なる^る事^{こと}へ^へかり^りこ^こん^んや^や作^しに^により^りて^てた^た成^{なり}
お^お方^{かた}成^{なり}も^もん^んが^が後^{のち}ふ^ふ右^{みぎ}方^{かた}捕^{とら}よ^よき^きり^りく^く退^ひ出^でと^と右^{みぎ}方^{かた}
後^{のち}お^お方^{かた}お^お作^しぶ^ぶて^てお^お方^{かた}成^{なり}脚^{あし}膝^{ひざ}と^と心^{こゝろ}と^とぞ^ぞ中^{なか}右^{みぎ}成^{なり}
よ^よか^かん^んへ^へたり

長^{なが}治^ち二^に年^{ねん}後^ご二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}あ^あり^りの^の比^ひ内^{うち}の^の西^{せい}房^{ぼう}あ^あ上^{うへ}人^{ひと}
せ^せう^うく^く花^{はな}成^{なり}見^みゆ^ゆり^りき^きり^りお^お方^{かた}三^{さん}音^ねよ^よ一^{いち}枝^{えだ}成^{なり}き^きり^りて^てま^まさ^さ
う^う一^{いち}支^し親^{おや}あ^あを^をれ^れた^た目^めの^のけ^けも^もさ^さら^らり^りき^きり^りき^きり^りを^をる^るを^をる^るを^をる^るを^をる^る
あ^あそ^そて^てお^おの^の目^めた^たと^とま^まと^とら^らて^てお^お成^{なり}成^{なり}合^あく^くき^きき^きり^りた^た方^{かた}
け^けへ^へく^く様^{さま}の^の枝^{えだ}と^とり^りて^てあ^あん^ん時^{とき}の^の後^ごよ^よう^うら^らい^いあ^あそ^そて^てお^お成^{なり}
と^とえ^えく^くび^びく^くと^とえ^えま^ま々^々り^り備^ひ後^ご分^{ぶん}有^あり^りお^お方^{かた}お^お子^こお^おて



古今卷十九ノ

〇又十五



今なつあはまあふんとあやしくなるに南無(一)と
りてこの前より八重祿のゆきふりうてまうりむ
のしゆまをわねは柄と見あげくやひうく種と
侍とあふのゆきを杖伝きうせえおちさるその杖と
袍の袖くまおちえあおせりこのお何とあは種と
傳よまへたれ肉くまうをひらしてぞりむと傳
つづきまにせんといきせざるまうとやゆいこひて
まゐりゆひあがりいふくのりまされど女房御者紅
のうすやうまゐてつうりまね

か伝居そとのちふさうひあ八重まう

古今卷十九

みさんやとらふれいせり

あー

う海とわくと君まつあるぬまや

屋いさくまをけけぞりそおと

原庄院中尉十月れうち坊屋筆おまぬかぬ為長兼
肉くまのく鬼の肩よそなまやんくうれおくくひて
さあうひさるるあはゆあより前結とる次のおとこ
こくまう結あうる櫻紙とまてそこのお紙一とて
へくあ人うそまのせうそとま果園傳よりせく
おそれありされど空あはらうりまうくおげま家の

為末のつる瓜作りて盛りをるとなんのいし眞まのこ
らふんの物さかひくちうす人し空をわびげしきさるも
けぞろくやうわらんゆりしこぞ

同抄付内裏まて花あををまをり人々めんくし流流
とれどめり花をまをり北ひきたり人々付たあつ橋の枝
類あまへてかせて南庭井池のまふわりまをり
まゆ簡かんと付くた花とまをりまゆりま事まことの孝道たうたうがた
うんしん鼻くさのあやとあまをりて池の作りしと鼻くさ
あまをりまをりあまをりて大むし簡と付り
まゆり眞のまをりまをり

古今卷十九

恭うやまつ是は年中六月お百人の終へ萬蒲とほりたはやそ
よみゆりま

りまならそわあめから成んま
らあまをりまや川いよよとて

後浦河尻の所付お縁二年九月十日例幣おひなお乃付
お宣のたまお下職しやくまごまのりておゆまのり
人々愚の間小よりあまをり居て何とねま物もの紙し
まをり大盤おひらあまの内付どてけねお席しやくまをり
りてあまの書かん肩かたおまをりまをりお人ひとまをり
うらまをりおまをりおまの物紙ものいよよまをり

よみつらりける

うらうらむる想いらとをの物あきん

しらふれり世をのそけとそぢりか

返しははけとて身をゆふきり

金光地まへてみわてく梅とらうて世たりて

びとひ付たりあ

志くあうけりそふる八重さう

さうてふ代のまみわへとて

松樹と貞木といわすり梅うらう人のあふりの

まれ貞あつたにわすけおれそけきあは

古今卷十九

〇二十

とわうてあだりつをみたりなれだこれ貞心に

あつて貞松八年のまじさになつたれ名長八重乃

わわうさ小尻向と潘あにが西征賦うけれと

あのにう後なり

夏家老宰府小おゆ一老りあらしきり此

こらあうはあわひとこせよ梅のこか

わうりあうそまかまされそ

まうみとさほひくまやあ城のぞくはらまうり

まひくのらうこれ紅袖あゆの梅け片えさ梅り

ひうひほひく

